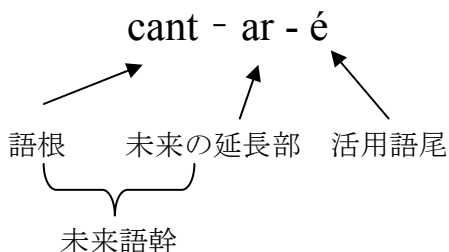


スペイン語ガイドブック

直説法未来・過去未来

■ 1. 未来の規則変化

未来形は ar 動詞、er 動詞、ir 動詞の語根に ar, er, ir という延長部をつけて未来語幹を形成します。この延長部は不定詞語尾と同じなので、不定詞形が未来語幹となります。



活用語尾はすべての動詞で、é, ás, á, emos, éis, án です。これらの語尾は haber の直説法・現在の活用とよく似ています（2人称複数形だけが少し違う）。

全活用形で強勢は移動せず活用語尾にあります。emos は s で終わるのでアクセント符号はつけません。

(1) ar 動詞

cantar 「歌う」	
cant-ar-é	cant-ar-emos
cant-ar-ás	cant-ar-éis
cant-ar-á	cant-ar-án

(2) er 動詞

comer 「食べる」	
com-er-é	com-er-emos
com-er-ás	com-er-éis
com-er-á	com-er-án

(3) ir 動詞

vivir 「生きる」	
viv-ir-é	viv-ir-emos
viv-ir-ás	viv-ir-éis
viv-ir-á	viv-ir-án

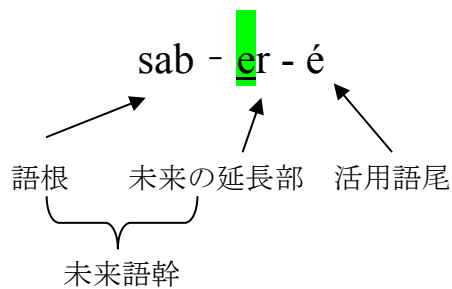
* 不定詞語尾にアクセント符号がある動詞の未来形では語根のアクセント符号がなくなります。

oír 「聞く」	
oír-é	oír-emos
oír-ás	oír-éis
oír-á	oír-án

■ 2. 未来・不規則変化

未来形には少数の不規則動詞があります。それらは、(1) 延長部の e が消失する動詞、(2) 延長部の e または i が d に変化する動詞、そして (3) 語根が短縮する動詞の 3 種類に分かれます。いずれも、語尾は規則的な活用変化をする。

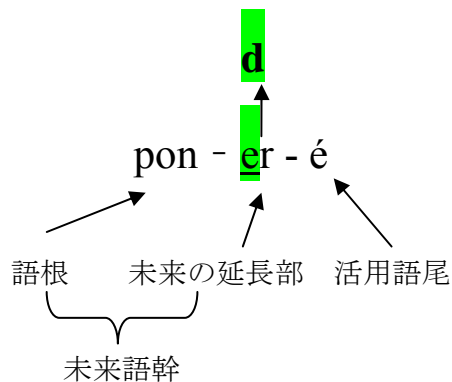
(1) e が消失する動詞



saber 「知る」	
sab-r-é	sab-r-emos
sab-r-ás	sab-r-éis
sab-r-á	sab-r-án

同種: poder 「できる」、querer 「望む」

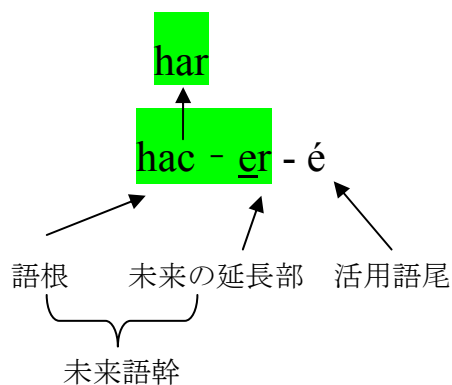
(2) 延長部の e, i が d に変化する動詞



poner 「置く」	
pon-dr-é	pon-dr-emos
pon-dr-ás	pon-dr-éis
pon-dr-á	pon-dr-án

同種: tener 「持つ」、salir 「出かける」、venir 「来る」。

(3) 語幹が短縮する動詞



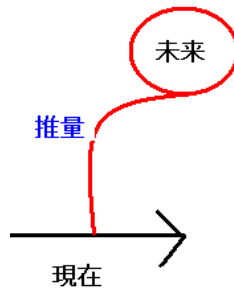
hacer 「する」	
ha-r-é	ha-r-emos
ha-r-ás	ha-r-éis
ha-r-á	ha-r-án

decir 「言う」	
di-r-é	di-r-emos
di-r-ás	di-r-éis
di-r-á	di-r-án

* この2つの動詞だけの固有の変化で、他の動詞はありません。

■ 3. 未来形の意味

未来形の本質的な意味は話者の「推測」を示すことです。現在のことも未来のことも「推測」の意味があれば「未来形」を使うことができます。



次の用法を見ましょう。

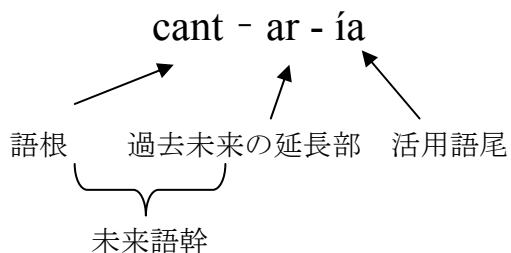
- (1) 未来や現在のことについての推量。「...だろう」と訳される。
 - ¿Cuándo **terminarás** de estudiar? // 君はいつ勉強が終わるの? #
terminar de ~を終える estudiar 勉強する
- (2) 意志。「…するつもりだ、…しよう」と訳される。
 - Te lo **contaré** por el camino. // 行く途中で君にそれを話してあげよう。
contar 話す por el camino 途中で
- (3) 命令。「…しなさい、…するんだよ」という意味
 - Me **esperarás** aquí. // 君はここで僕を待っているんだよ # esperar
待つ; aquí ここで

*未来のことであっても、「推測」ではなく強い確信があれば現在形でもよいのです。

- Mañana no **voy** al mercado. // 明日私は市場には行きません。 # mañana
明日 ir a ~に行く mercado 市場

■ 4. 過去未来. 規則活用

過去未来は未来語幹を用います。語尾は-ía, -ías, -ía, -íamos, -íais, -íanとなり、er 動詞と ir 動詞の線過去の語尾と同じです。



(1) ar 動詞

cantar 「歌う」	
cant-ar-ía	cant-ar-ía-mos
cant-ar-ía-s	cant-ar-ía-is
cant-ar-ía	cant-ar-ía-n

(2) er 動詞

comer 「食べる」	
com-er-ía	com-er-ía-mos
com-er-ía-s	com-er-ía-is
com-er-ía	com-er-ía-n

(3) ir 動詞

vivir 「生きる」	
viv-ir-ía	viv-ir-ía-mos
viv-ir-ía-s	viv-ir-ía-is
viv-ir-ía	viv-ir-ía-n

■ 5. 過去未来・不規則活用

未来形で不規則変化をする動詞は過去未来形でも同様に不規則変化になります。語根の延長部は未来の不規則変化形と同じです。

(1) e が消失する動詞

saber 「知る」	
sab-r-ía	sab-r-ía-mos
sab-r-ía-s	sab-r-ía-is
sab-r-ía	sab-r-ía-n

同種: poder 「できる」、querer 「望む」

(2) 語幹の e、i が d に変化する動詞

poner 「置く」	
pon-dr-ía	pon-dr-ía-mos
pon-dr-ía-s	pon-dr-ía-is
pon-dr-ía	pon-dr-ía-n

同種: tener 「持つ」、salir 「出かける」、venir 「来る」。

(3) 語幹が短縮する動詞

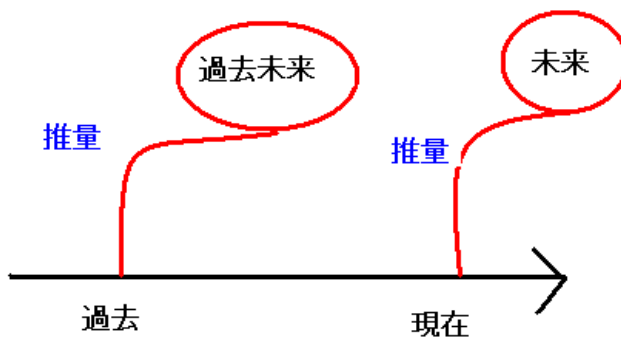
hacer 「する」	
ha-r-ía	ha-r-ía-mos
ha-r-ía-s	ha-r-ía-is
ha-r-ía	ha-r-ía-n

decir 「言う」	
di-r-ía	di-r-ía-mos
di-r-ía-s	di-r-ía-is
di-r-ía-	di-r-ía-n

■ 6. 過去未来の意味

過去未来形は基本的に、過去の事についての推量 (例文-[1]) と過去から見て未来の事 (例文-[2]) を表します。他に婉曲的用法 (遠回しな表現、ていねいな表現。例文-[3]) や仮定文の帰結節の用法 (例文-[4], *sin ti* が条件句があります)。

- [1] Cuando llegué a casa **serían** las dos de la tarde. // 私が家に着いたときは午後の2時だったでしょう。# *llegar a* ~に着く *casa* 家 *tarde* 午後
- [2] Yo te dije que a esta hora **haría** la maleta. // 私はこの時間にスーツケースの用意をと言いました。# *dije* < *decir* 言う *hora* 時間 *maleta* スーツケース
- [3] Estás engordando. **Deberías** hacer más ejercicio. // 君は太ってきた。もっと運動をしなければいけないんじゃないの。# *engordar* 太る *deber* ~しなければならない *ejercicio* 運動
- [4] ¡No sé lo que **haría** yo sin ti! 君がいなければ僕はどうしたらいいのかわからない！



スペイン語の質問

***ir a +不定詞も未来を示すと習いました。これと未来形の違いを教えてください。**

→たとえば、(1) Voy a terminar este trabajo. と(2) Terminaré este trabajo. を比べてみましょう。(1)では、Voy a...という現在形が使われているので、未来形(2)のような「推量」の意味がありません。そこで、(1)には決然とした意志が感じられます。また、現在形なので「現在に近い時点で仕事を終える」ことを表明しています。一方、(2)は未来形なので、「仕事を終える」こと、「終えるであろう」ことを予測しながら「推量」の意味を込めて「意志」を表明しています。

文法を言葉で説明しようとするすると2つの違いがわかりにくいかも知れませんので、具体的な例で考えてみましょう。たとえば、上の2つの文を疑問文にするとどうでしょうか。(1) ¿Voy a terminar este trabajo? と(2) ¿Terminaré este trabajo? (1)には「私がこの仕事を終えるつもりだって？(そんな！、そんな無茶なこと言ってないよ！)」というニュアンスがあります。(2)は「私はこの仕事を(果たして)終えることになるのかな？(大丈夫かな?)」という不確かさ、自信のなさを示しています。このように、(1)は「決然とした現在の意志」について疑問を呈し、(2)は「(私の)推量・意志」の内容について自問しています。このように、両者は現在と未来の時制の基本的な意味(未来形＝「推量」の意味)を見ると、その違いがわかります。

*** ¡Hasta la semana que viene! と言いますが、なぜ¡Hasta la semana que vendrá!とならないのですか？**

→未来形の基本的な意味は「推量」です。ここでは週が来ることは推量しているのではなく、確かな事実ですから現在形になります。Mañana voy al mercado. (私は明日市場に行きます) というときも現在形になります。これも確かな事実として言っているからです。この場合は... iré

という未来形で言うと、「意志」や「推量」の意味が強くなります。

*** 過去未来の意味やどういう時に使えば良いのかよくわかりません。**

→基本的には過去のことを想像したり、過去から見て以後のことを言うときに使われます。未来形と比較するとわかりやすいと思います。

*** 過去未来は「過去から見て未来のこと」を表すということですが、たとえば El me dijo que me llamaría por teléfono. の llamar por teléfono という行為が現在から見て未来のことでもかまいませんか？**

→現在から見て未来のことでもかまいません。たとえば、El me dijo que mañana me llamaría por teléfono. (彼は明日私に電話する、と言った)ということもできます。

*** Llegaría tarde a la estación. などの文は「過去のことの推量」になりますか、それとも「婉曲用法」でしょうか。**

→文脈によります。一般に、過去未来は過去を示す文脈がないと、一番多いのは婉曲用法なので、「彼は駅に遅くついてしまうかもしれないね」という感じになります。ところが、上智大学出版会の「詳解スペイン語文法」(p.159)には、

- Saliendo tan tarde, Gregorio no llegaría a tiempo para tomar el avión.

を、「過去の事象に対する現在からの推量」の用法としてあげています。これは、「あんなに遅く出発したので、グレゴリオは飛行機に乗り遅れたのだろう」という解釈でしょう。しかし、Saliendo...を「条件」の意味で解釈すると、現在のことを仮定した文になります。どちらも可能だと思います。

「中級スペイン語文法」（白水社：山田監修）p.318 では、過去の行為・状態の推測の場合は、過去を示す副詞（句）を伴ったり、文脈から過去であることが分かる必要がある、ということです。ということは、上の文も

- Entonces llegaría tarde a la estación.

上の、entonces が「それならば」ではなくて、「その時」という意味で解釈すれば、「遅く着いたのだろう」となると思います。

*** どうしても過去未来完了で表現しなければならない事態はあるのでしょうか。**

→確かに時間の関係で、「過去から見た以後の時点で完了すること」や「過去の時点で完了していることを推量する」というようなことはあまり使われないかもしれませんが、それでもときどき見かけます。また、後で習う条件文の帰結節でも使います。（これもそれほど頻度は多くありませんが…）。

スペイン語の理由

*** 未来形規則変化と点過去規則変化が似ているのはなぜですか？**

→よく見ると語尾はあまり似ていません。ar 動詞の YO の形がéになることと、VOSOTROS が点過去で asteis, 未来で aréis になるので一部似ています。むしろ、haber の現在形とよく似ていますから比べてください。

*** 完了形の he, has, ha と未来形の é, ás, á と似ているのはどういう関係があるのですか？**

***なぜ不定詞に haber の活用形がくっつくことで未来形をあらわすの
だろうと思った。どうしてこうなったですか？**

→haber は中世スペイン語では「持っている」という意味でした。そこで、たとえば、comer he ならば「食べることを持っている」→「食べる
ことになっている」という意味になり、それが「食べるだろう」と
いう意味に変わりました。古いスペイン語（中世）では comer と e が
離れて書かれていることがありました。

*** poner や tener の未来形の d はどこから来たのですか？e, i が d に変
わるのは母音が子音に変わっていて変な感じがします。**

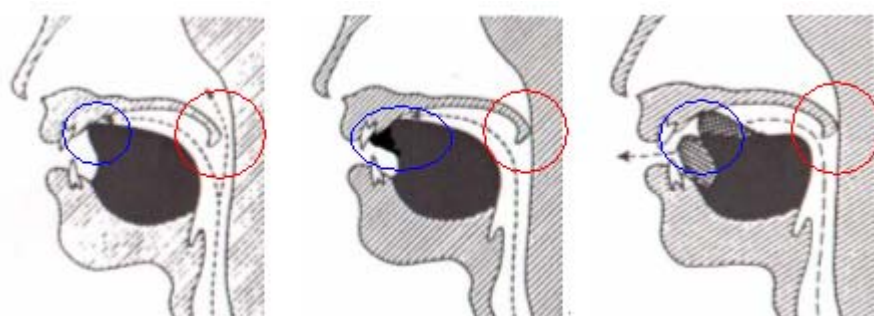
*** 未来不規則変化は3パターンありますが、どれがどうなるのか規則
はあるのですか？**

*** podré と pondré がややこしい…**

*** スペイン語は未来形の活用が楽で、一方過去については様々に変化
する。なぜだろう。文化的な背景があるのだろうか？**

→未来形についてまとめてお答えいたします。未来形の不規則形は、
haber の形が後続することによって、不定詞の語尾の e または i の強勢
（アクセント）がなくなって弱化したために生まれました。これが saber,
poder, querer の不規則の由来です。

次に poner, tener, salir, venir で d が現れる理由は発音の仕組みによるも
のです。次の図を見てください。



(1) [n]

(2) [d]

(3) [r]

たとえば *tener* では *ner* の *e* が脱落すると *nr* という連続が生まれます。(1) [n]の発音をするときは鼻腔に抜ける空気の道(上の図の赤く囲った部分)があります。(3)の[r]になると鼻腔に抜ける空気の道が閉じられ、弾き音を発音します。その移行する部分で瞬間的にまだ弾き音にならないときに、舌尖(上の図の青く囲った部分)が[n]の発音のまま鼻腔に抜ける空気の道が閉じられると、[d]が生まれるのです。また、第三種の *hacer* や *decir* については中世スペイン語ですでに *fazré* や *dizré* という形がありましたが、その語根の子音 *z* も脱落したためです。

このように、未来形の不規則形は文化的背景によるというよりも、音声的な原因によります。

*** 過去未来は過去推量と言ったほうが分かりやすくいいと思った。**

→賛成です。「未来形」も「推量形」と呼びたいのですが、日本のスペイン語教育ではふつう「未来，過去未来」が使われています。

*** 過去未来の不規則変化は未来の不規則変化と同じ語根が使われていますが、なぜですか。**

→未来形と過去未来形はどちらも不定詞をもとにして形成されました。不定詞に、未来形は *haber* の現在形が(*he, has, ha...*)、過去未来形は *haber* の過去形(線過去)の短縮形(*ia, ías, ía...*)が、それぞれ付加されたのです。そこでどちらも不定詞という元の形があるので、語根が共通することになります。

fin